

日本子ども社会学会第13回大会

:….'…プログラム*:….*'…

2006年7月1・2日

東京成徳大学

大会日程

前日 6月30日(金)

15:00 - 17:00

会計監査

17:00 - 19:00

理事会

第1日 7月1日(土)

9:00

受付

9:20 - 9:30

開会式

9:40 - 12:00

研究発表

12:00 - 12:40

総会

12:40 - 13:25

昼食

13:30 - 16:20

研究発表

16:30 - 18:00

ワークショップ

18:00 - 20:00

懇親会

第2日 7月2日(日)

9:00

受付

9:30 - 12:00

研究発表

12:00 - 13:10

昼食 評議会・各種委員会

13:20 - 15:20

公開シンポジウム

15:30 - 17:30

ラウンドテーブル

ご案内

1. 会場 東京成徳大学 十条台キャンパス
【連絡先】 〒114 - 0033 東京都北区十条台 1 - 7 - 13
日本子ども社会学会第 13 回大会実行委員会
東京成徳大学子ども学部 子ども学科 永井研究室気付
TEL : 03 - 3908 - 4530
FAX : 03 - 3907 - 6195
E-mail : nagai@tsu.ac.jp

* なお、大会期間中は大会本部(8号館2階大会議室)に大会実行委員会事務局員が待機しております。

【入会および会費納入等に関する相談・問い合わせは日本子ども社会学会事務局へ】

〒261 - 8586 千葉市美浜区若葉 2 - 11
放送大学「発達と教育」専攻 住田正樹研究室 気付
TEL & FAX 043 - 298 - 4131
郵便振込口座 01760-1-85048
学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jscs2/>

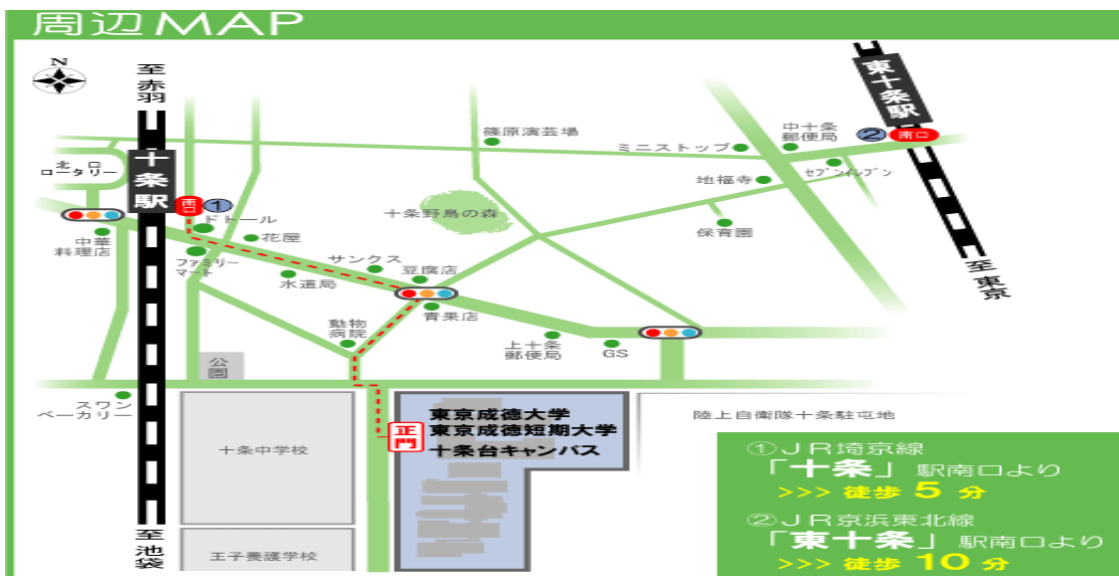
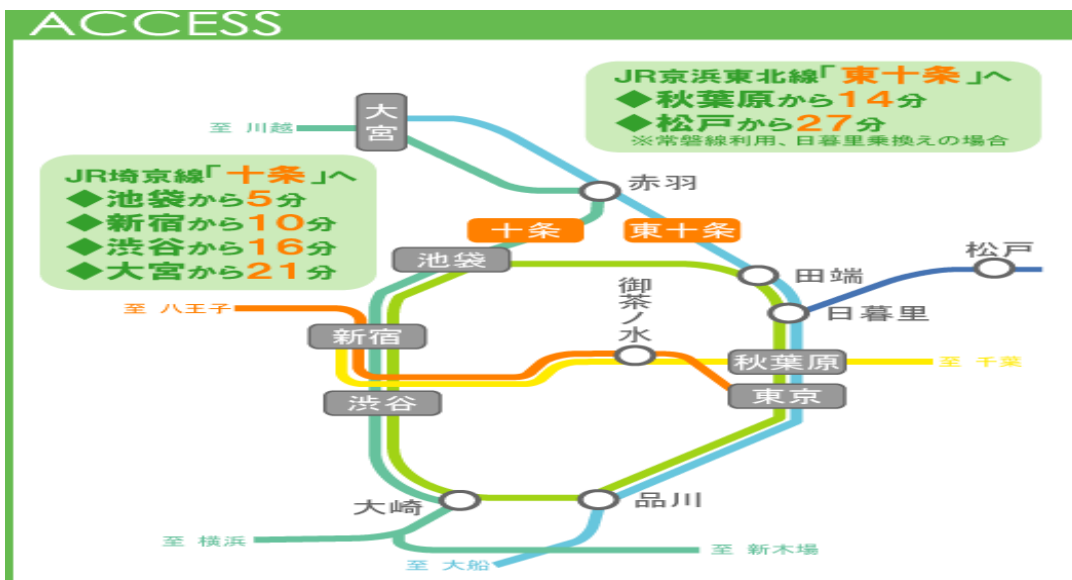
2. 受付 8号館1階にて行います。
3. 参加費 【大会参加費】 学会員 3,500円 臨時(当日)会員 4,000円
【懇親会費】 5,000円(8号館1階カフェテリア)
4. 研究発表 個人(1人)発表 20分・質疑応答 5分、共同(複数)発表 40分・質疑応答 10分とします。発表時間を厳守してください。なお、レジュメを用意される方は、60部以上ご用意ください。万一不足の場合、大会本部ではコピー等いたしかねますのでご了承ください。
5. 発表取消(欠席) 発表を取消(発表者が欠席する)の場合には、大会前日(6月30日)までに上記の大会実行委員会にお知らせください。
なお、発表取消については、学会ニュースにその旨を掲載します。
6. 当日配布資料 当日別途資料を配付される場合は、分科会名・氏名を明記し、各分科会の係まで発表当日、早めにご提出ください。

7. クローク 【場所】 8号館 2階大会議室
【時間】 9:00~17:50

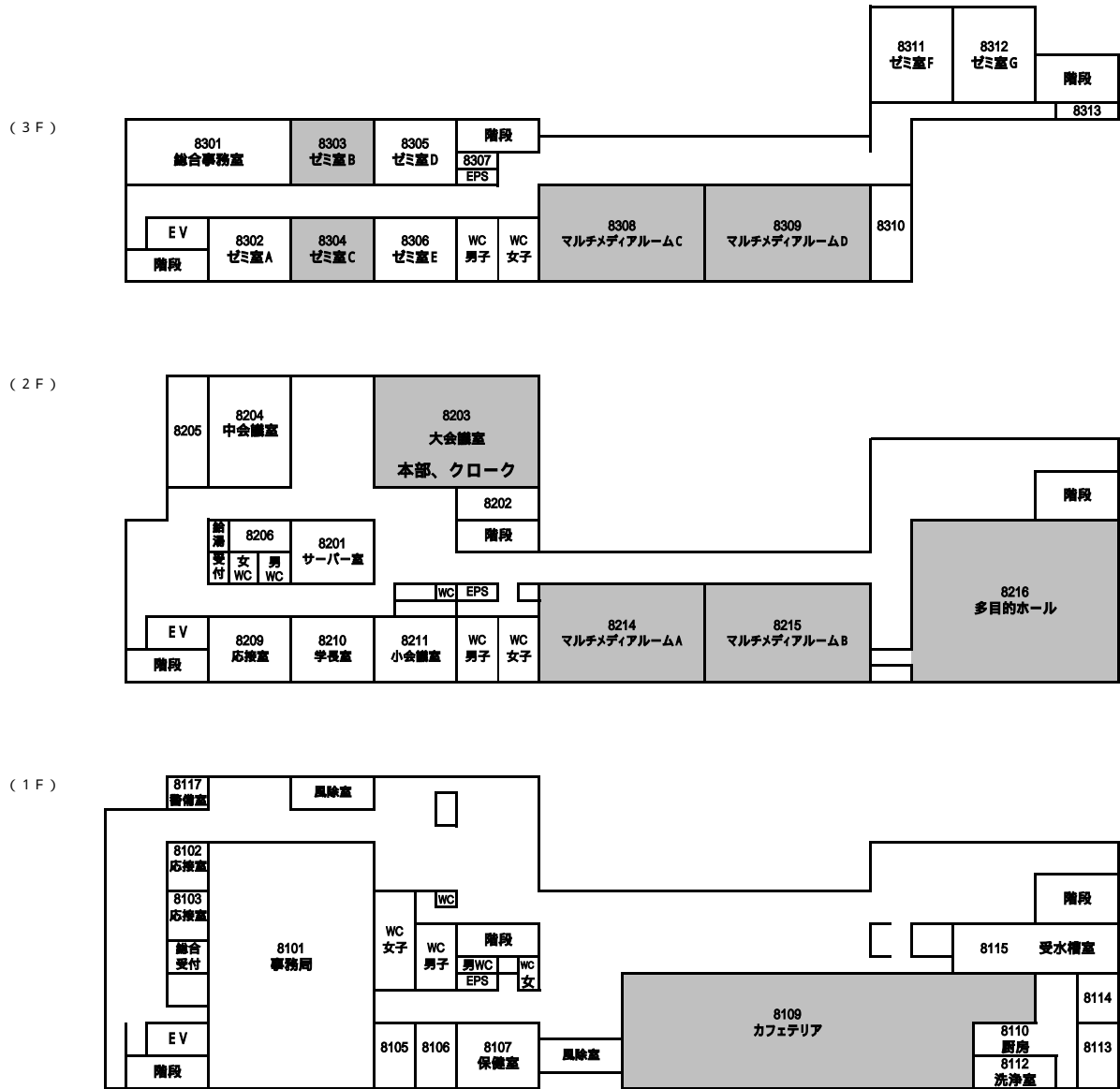
8. 会員休憩室 【場所】 8号館 3階 8303教室、8304教室
【時間】 9:00~17:50

9. 宿泊 会場はJR 埼京線十条駅付近です。JR 池袋駅(電車で5分弱)周辺のホテルが便利かと思います。
申し訳ございませんが、各自でご予約下さい。

大会会場へのアクセス



会場案内図



受付は8号館1F

7月 1日(土) 9:40 ~ 12 :00

2階 8214教室

- 1 子どもの発達・子育て問題

司会 庄司 一子 (筑波大学)

石井 光恵 (日本女子大学)

- 9:40 ~ 10:05 **幼児の寝かしつけ方をめぐる母親の養育観の違い**
東京・パリでのインタビューによる生活構造の比較から
越光 雅代
- 10:05 ~ 10:30 **父親の育児参加と夫婦関係**
平川 眞代 (広島大学大学院)
- 10:30 ~ 10:55 **母子関係におけるしがみつきからハイダーへの変化**
人類進化史における示唆
小原 由美子 (東京成徳大学)
- 10:55 ~ 11:20 **少子社会における子育て支援の課題**
沖縄県内自治体調査をもとに
馬居 政幸 (静岡大学)
- 11:20 ~ **総括討論**

7月 1日(土) 9 :40 ~ 12:00

2階 8215教室

- 2 歴史研究

司会 山田 浩之 (広島大学)
上杉 孝實 (畿央大学)

- 9:40 ~ 10:05 **「家なき幼稚園」における子ども理解教育**
「姉様学校」の設立と保母・母親の教育支援
和田 真由美 (兵庫教育大学大学院)
- 10:05 ~ 10:30 **大正期の「児童公園指導員」の役割**
川北 典子 (平安女学院大学)
- 10:30 ~ 10:55 **保育史のなかの紙芝居**
- 戦前・戦中を中心に -
種市 淳子 (名古屋柳城短期大学)
鬘櫛 久美子 (名古屋柳城短期大学)
- 10:55 ~ 11:30 **占領・検閲期の印刷紙芝居**
鈴木 常勝 (立命館大学)
- 11:30 ~ **総括討論**

7月1日(土) 9 :40 ~ 12:00

3階 8308教室

- 3 育児不安

司会 木村 敬子 (聖徳大学)

桜井 智恵子 (大阪大谷大学)

9:40 ~ 10:05

育児不安の規定要因に関する研究

石崎 隆嗣 (広島大学大学院)

10:05 ~ 10:55

育児不安の構造に関する考察

1、都市の母親調査から 2、地域間比較の視点から

三枝 恵子 (埼玉県立松山高等学校)

馬場 康宏 (東京成徳短期大学)

深谷 昌志 (東京成徳大学)

深谷 野亜 (松蔭大学)

朴 珠絃 (東京家政大学大学院)

10:55 ~ 11:20

韓国の母親の育児行動と意識から見える育児不安

朴 珠絃 (東京家政大学大学院)

深谷 昌志 (東京成徳大学)

深谷 野亜 (松蔭大学)

馬場 康宏 (東京成徳短期大学)

三枝 恵子 (埼玉県立松山高等学校)

11:20 ~

総括討論

7月1日(土) 9 :40 ~ 12 :00

3階 8309教室

- 4 ジェンダー

司会 多賀 太 (久留米大学)

樋田 大二郎 (青山学院大学)

- 9:40 ~ 10:05 **2歳児の自他の性別理解に関する研究**
作野 友美(奈良女子大学大学院)
- 10:05 ~ 10:30 **子どもであるということ 子ども性の理論的考察**
田中 弘喜(滋賀大学)
- 10:30 ~ 10:55 **幼児期における身体的諸活動とジェンダー**
藤田 由美子(九州保健福祉大学)
- 10:55 ~ 11:20 **高校生大学生にみる女子の社会的・内的<元気さ>の検証**
小・中学生との連続性の中で—
斉藤 浩子(東京成徳大学)
深谷 和子(東京成徳大学)
三枝 恵子 (松山高校)
- 11:20 ~ **総括討論**

7月1日(土) 13 :30 ~ 16 :20

2階 8214教室

- 1 子育てネットワーク

司会 林 浩康 (東洋大学)

萩原 元昭 (埼玉学園大学)

13:30 ~ 13:55 「子育てネットワーク」の変遷と展望

中谷 奈津子 (金城学院大学大学院)

橋本 真紀 (聖和大学)

13:55 ~ 14:20 子育てネットワークに関する調査報告 その活動傾向

西村 真実 (奈良佐保短期大学) 中谷 奈津子 (金城学院大学大学院)

橋本 真紀 (聖和大学) 越智 紀子 (近畿大学九州短期大学部)

山縣 文治 (大阪市立大学) 相戸 晴子

14:20 ~ 14:45 子育てネットワークに関する調査結果報告

~ 特別なニーズをもつ子どもと子育てネットワーク ~

越智 紀子 (近畿大学九州短期大学部) 西村 真実 (奈良佐保短期大学)

中谷 奈津子 (金城学院大学大学院) 橋本 真紀 (聖和大学)

山縣 文治 (大阪市立大学) 相戸 晴子

14:45 ~ 15:10 幼児期にふさわしい生活を支える保育実践

~ 地域人材を教育資源化する実践と事例として ~

多田 琴子 (姫路市立曾在幼稚園)

15:10 ~ 16:00 幼児をもつ母親の子育て情報資源

メール・インターネット・電話・家族・友人・相談機関などのネットの中での子育て

深谷 和子 (東京成徳大学) 熊沢 幸子 (昭和女子大学)

深谷 昌志 (東京成徳大学) 有村 久春 (昭和女子大学)

市川 薫子 (大和幼稚園) 今井 和子 (東京成徳大学)

河村 真理子 (育成幼稚園) 斉藤 浩子 (東京成徳大学・非常勤)

三枝 恵子 (松山高校)

16:00 ~

総括討論

7月1日(土) 13 :30 ~ 16 :20

2階 8215教室

2 子ども観

司会 飯田 浩之 (筑波大学)

押谷 由夫 (昭和女子大学)

13:30 ~ 14:20 **子ども観に関する研究()**

山瀬 範子 (九州大学大学院)

清水 一巳 (九州大学非常勤)

住田 正樹 (放送大学)

14:20 ~ 15:10 **居場所としての学校に関する考察**

~ 子ども社会学会調査から ~

深谷 野亜 (松蔭大学)

須田 康之 (北海道教育大学)

西本 祐輝 (琉球大学)

深谷 昌志 (東京成徳大学)

15:10 ~ 16:00 **「子どもらしさ」の実証的研究(1)**

半田 勝久 (東京成徳大学)

吉川 好昭 (東京成徳大学)

永井 聖二 (東京成徳大学)

深谷 昌志 (東京成徳大学)

16:00 ~

総括討論

7月1日(土) 13:30 ~ 16:20

3階 8308教室

- 3 遊び研究

司会 田中 亨胤(兵庫教育大学)

小田 豊 (特殊教育総合研究所)

- 13:30 ~ 13:55 **教育学部学生の幼児期の遊び体験について(1)**
鈴木 絵理子 (草苑保育専門学校) 野尻 裕子 (川村学園女子大学)
栗原 泰子 (川村学園女子大学) 細井 香 (川村学園女子大学)
内海崎 貴子 (川村学園女子大学)
- 13:55 ~ 14:20 **幼児のコンピューターゲーム遊びと眼球運動**
~ アイカメラによる予備的実験 ~
湯地 宏樹 (比治山大学短期大学部)
- 14:20 ~ 14:45 **「媒介された行為」による活動システムの
協働的生活過程と臨床的支援に関する研究**
松本 健義 (上越教育大学)
- 14:45 ~ 15:10 **「学校の怪談」はいかに読まれているか**
吉岡 一志 (広島大学大学院)
- 15:10 ~ 15:35 **「遊び」構成論の構築に向けての試論**
小川 博久 (聖徳大学)
- 15:35 ~ **総括討論**

7月1日(土) 13:30 ~ 16 :20

3階 8309教室

- 4 教育支援

司会 有村 久春 (昭和女子大学)

田中 統治 (筑波大学)

- 13:30 ~ 13:55 **保育における援助の意識化に関する研究**
全体把握を前提とした個への理解の視点から
渡辺 桜 (名古屋学芸大学)
- 13:55 ~ 14:20 **幼稚園におけるソーシャルスキル教育**
河村 真理子 (育英幼稚園)
- 14:20 ~ 14:45 **高度成長期前後における親と教師の宿題論**
李 貞淑 (横浜市立大学大学院)
- 14:45 ~ 15:10 **学級集団内における補助教員の役割**
木村 学 (東京学芸大学大学院)
- 15:10 ~ 15:35 **海外日本人学校における授業支援ボランティアについて**
:1980年代前半大規模日本人学校での実践の成果と課題
那須野 三津子 (東京成徳大学)
- 15:35 ~ **総括討論**

7月1日(日)16:30～18:00

2階 8214 教室

ワークショップ1

テーマ： 認定こども園のゆくえ

司 会：神長美津子（東京成徳大学）

話題提供：篠原孝子（文部科学省）

菊地政幸（ふなぼり中央保育園）

大竹節子（品川区立二葉すこやか園）

山田麗子（「遊育」編集）

指定討論：小田 豊（国立特殊教育総合研究所）

急速な少子化の進行及び家庭や地域を取り巻く環境の変化に伴い、小学校就学前の子どもへの教育・保護に対する需要が多様なものとなってきていることから、幼稚園及び保育所並びに保護者に対する子育て支援の総合的な提供を推進するための措置として、平成18年10月より認定こども園が開設されることとなっており、現在、全国35施設において、その試行的な取り組みがなされている。こうした取り組みは、昭和22年に学校教育法と児童福祉法が制定され、二元の保育制度が確立して以来の大改革である。しかしながら、認定こども園では、0歳児から小学校就学前の子どもを対象とし、保育に欠ける子も欠けない子も、また地域の未就園の子どもとその親も集まることから、子どもの最善の利益にたって、幼児教育、保育、さらに地域の子育て支援を実施していくためには、多くの課題が残されている。

そこで、ワークショップでは、それぞれ立場より、幼保一体化施設の現状や課題等について話題提供していただき、認定こども園の運営やカリキュラム、保育者の専門性等の在り方を考えたい。

7月1日(土)16:30~18:00

3階 8308 教室

ワークショップ3

テーマ： **子どもの地域参画の可能性を探る**
子どもと大人を中心に

司会	萩原元昭（埼玉学園大学）
子どもの社会学の視点から	持田良和（龍谷大学）
社会教育の立場から	萩原建次郎（駒澤大学）
実践者の立場から	入江祥子（渋谷の遊び場を考える会）

地域づくりの一環として子どもの地域参画活動を取り上げる自治体、団体やNPO、グループが多くなっているが子どもが、主体となって参画する活動の必要性や方法、子どもの参画力、子どもとファシリテーターとのあり方をめぐって、様々な課題が生じている。ここでは、地域における大人と子どもの関係を中心に、子どもの地域参画の可能性を、話題提供者の提言をもとに、掘り下げて考えてみたい。

7月1日(土)16:30～18:00

2階 8215教室

ワークショップ2

テーマ:学校の役割を再考する

地域・家庭の変容と市場主義的「教育改革」のはざままで

司会	永井聖二（東京成徳大学）
子ども調査の結果から	深谷昌志（東京成徳大学）
学校経営の立場から	森永徳一（足立区立上沼田中学校）
学校論の視点から	古賀正義（中央大学）

子どもたちにとって今日でもその生活時間をもっとも多くすごすのは学校である。その学校は、近年の共同体の変容と市場主義的な「改革」の両面から変容を迫られている。子どもたちにとっての学校の意味、学校が社会のなかで果たすべき役割とは何かを、三人の話題提供者の提言をもとに考えてみたい。

7月 2日(日) 9 :30 ~ 12:00

2階 8214教室

- 1 教育の可能性

司会 山田 富秋 (松山大学)

内山 絢子 (目白大学)

9:30 ~ 9:55 **学童保育の今後の可能性について**

三好 正彦 (京都大学大学院)

9:55 ~ 10:20 **脳科学の成果を子ども研究に応用するための課題に関する研究**

学校カリキュラムへの示唆を中心にー

緩利 誠 (筑波大学大学院)

10:20 ~ 10:45 **地域人材と教育 楚辺・宇田川交流事業を通して**

春日 清孝 (明治学院大学非常勤)

10:45 ~ 11:10 **非行少年へのケアはどこまで可能か**

~ 非日常空間における「自己への配慮」への考究 ~

山内 啓路 (東京少年鑑別所)

11:10 ~

総括討論

7月 2日(日) 9 :30 ~ 12:00

2階 8215教室

- 2 高校生

司会 伴 恒 信 (鳴門教育大学)

石井 久雄 (明治学院大学)

- 9:30 ~ 9:55 **若者文化としての学校制服**
- 女子高生の制服おしゃれに着目して -
山口 晶子 (千葉大学大学院)
- 9:55 ~ 10:20 **不登校を経験した生徒の語りにみる学校生活の感覚**
富岡 理恵 (上智大学大学院)
- 10:20 ~ 10:45 **高校生の学校組織に対する認識**
熊丸 真太郎 (徳島文理大学短期大学部)
- 10:45 ~ 11:10 **現代日本の心理主義化と高校生の友人関係**
小針 誠 (同志社女子大学)
- 11:10 ~ 11:35 **高校生にとっての就業観**
古賀 正義 (中央大学)
- 11:35 ~ **総括討論**

7月 2日(日) 9 :30 ~ 12 :00

3階 8308教室

- 3 子どもの生活研究

司会 熊沢 幸子 (昭和女子大学)

岡崎 友典 (放送大学)

9:30 ~ 9:55 **子どもの創作による童謡の検討**

金田 啓子 (岩手大学)

9:55 ~ 10:20 **都市郊外における幼稚園児の放課後**

梅景 優子 (一橋大学)

10:20 ~ 10:45 **幼稚園における食教育の実態(1)**

首都圏におけるアンケート調査から

小杉 洋子 (聖徳大学)

10:45 ~ 11:10 **幼稚園における食教育の実態(2)**

首都圏調査の自由記述から

木村 敬子 (聖徳大学)

11:10 ~ 11:35 **就学援助率の都道府県格差に関する分析の試み**

原田 彰

11:35 ~

総括討論

7月 2日(日) 9 :30 ~ 12:00

3階 8309教室

- 4 国際化と保育・教育

司会 金崎 芙美子 (宇都宮大学)

田中 理絵 (山口大学)

- 9:30 ~ 9:55 **外国籍幼児の園生活への適応過程**
菅田 貴子 (広島大学大学院)
- 9:55 ~ 10:20 **小学校におけるニューカマーの子ども文化実践**
真鍋 眞澄 (上智大学大学院)
- 10:20 ~ 10:45 **ニュージーランドの幼児教育**
佐藤 純子 (早稲田大学大学院)
- 10:45 ~ 11:10 **子どもが路上で生活すること**
インド ニューデリー 駅周辺の事例から
針塚 瑞樹 (九州大学大学院)
- 11:10 ~ 11:35 **レジオン・エミリアのプロジェクト型保育に基づいた日本の保育現場でのチャレンジ**
市川 薫子 (私立大和幼稚園)
- 11:35 ~ **総括討論**

7月2日(日)
13:20～15:20
2階 8216教室

公開シンポジウム「電子メディア社会の子どもたち」

司会 深谷昌志（東京成徳大学）
パネリスト 三浦展（カルチャースタディーズ研究所）
田村毅（東京学芸大学）
湯地宏樹（比治山女子短大）

現在の子どもは、電子ゲームやケイタイなど、電子メディア的な状況の中で暮らしている。大人たちはそうしたメディア社会の子どもの育ちに違和感を抱いているが、子どもにとって電子メディアは生まれながらの環境である。

このシンポジウムでは、そうした電子メディア社会に育つ子どもの問題を専門家とともに考えたいと思っている。

パネリストの三浦展氏は「下流社会」の著者として知られるが、本来は若者文化研究の権威で、かなり以前から、若者のニートやひきこもり現象に強い関心を寄せてきた。また、田村毅氏は青少年を対象とした精神医学者で、最近では、ネットを活用したカウンセリングの技法を開発している。さらに、湯地宏樹氏は幼児などのゲームの係わりに関心を寄せ、その研究成果は、今年の日本文学社会学会奨励賞に選ばれている。

このように青少年とメディアとの接点を追求してきた3氏から、メディア社会に生きる子どもの未来像をお聞きしたいと考えている。

7月2日（日）15：30～17：30

2階 8214教室

◆ラウンドテーブル

幼稚園における第三者評価を問う

各専門分野の解釈の相違に着目して

コーディネーター 松永愛子（日本女子大学大学院）

菊池里映（聖徳大学大学院）

尾上佳代（YMCA スポーツ専門学校）

幼稚園を対象にした第三者評価を行うという案が、幼稚園の無償化などの動きに伴って生じつつある。

この案の実現にはまだ多少の時間がかかることも予想されるが、この機会に再度、保育というものに対する一貫した第三者評価が可能なのか、つまり保育に対する解釈の一致はどの程度はかれるのかということについて議論をしておく必要があると思われる。

本ラウンドテーブルでは、まず一つの保育事例について様々な保育関連分野の専門家達が各自の立場において解釈を行い、そのつきあわせを行うことによって、保育という営為を解釈する視点の共通点、相違点を明らかにする。その上で自由に議論を行う中で、少しずつでも解釈の総合をはかってゆくことを目的とする。

7月2日(日) 15:30~17:30

2階 8215教室

◆ラウンドテーブル

協同教育と子どもの社会化の検討

コーディネーター 高旗正人 (中国学園大学)
南本長穂 (関西学院大学)

教科指導の構造は、はたして子どもたちの社会化にどのような影響を及ぼすであろうか。教科の指導法は学力形成との関連で語られ、協同教育という学習指導法も学力形成や学習意欲、学習への動機づけなどとの関係で話題にされることは多いけれども子どものパーソナリティ形成のどのように機能しているかについてはあまり問題にされていないように思われる。しかし、競争的關係や個人学習の形態に対して協同学習は明らかに違った集団過程に適應することで展開されるから、子どもたちの社会性の形成にも独自の影響を与えるに違いない。パーソンズ流の社会構造とパーソナリティのアイソモルフィズム観、ヒドゥンカリキュラム論、社会心理学などの立場から検討してみたい。

学会間での研究交流の試みとして、協同教育学会会長の安永 悟氏と同研究部長の杉江修治氏をお招きして研究視角を拡大したい。

7月2日(日) 15:30~17:30

3階 8308教室

◆ラウンドテーブル

子ども社会のなかのジェンダー

ジェンダー・フリー教育を巡って起きていること(その2)

コーディネーター 望月重信(明治学院大学)

近藤 弘(立教大学)

岸澤初美(立教大学兼任教師)

ジェンダー・フリーやジェンダーという言葉や概念が、議論の俎上に挙げられている。又子どものジェンダーやセクシュアリティに敏感な教師たちの教育実践が、批判の対象となる傾向にあるが、実際、ジェンダー・フリー教育を巡って、今、何が起きているのだろうか。特定政党による性教育やジェンダー教育の調査が行われたり、国の男女共同参画基本計画の策定においても、ジェンダー・フリー教育に対する議論への注釈が添えられていたりしている。これらの議論や批判点を掬い取り、学校現場のリアリティに沿ってその虚実を検討しながら、論争の背後にあるものを明らかにしたい。

当日は、ゲストスピーカーとして現場の先生を招いて、学校で起きていることの様々な実態を報告していただく予定である。

7月2日(日)15:30~17:30

3階 8309教室

ラウンドテーブル

子どものスポーツをめぐる諸課題ー子どもスポーツの可能性と限界ー

コーディネーター 山本清洋 (鹿児島大学)

話題提供者 泉優二 (小説家)

佐藤高弘 (日本スポーツ少年団広報普及部)

野村照夫 (日本水泳連盟医学委員会委員長)

スポーツの高度化は、プレイヤー自身はもちろん、観戦している人々にとって限らない喜びと生きるエネルギーを与えてくれる。しかし、このような高度なレベルに到達するには、長期間にわたる創造的なトレーニングを必要とする。子どもとの関連でいえば、象徴的な例としてスポーツの早期教育を掲げることが出来る。日本古来のスポーツである相撲では、心技体の高度な統合が要請されるように、他のスポーツに於いても表現は異なっても同じような資質が必要となる。

近年、高度化スポーツにおいて、水泳競技、フィギュアスケート、女子の器械体操等では、特に少年期にある子どもが目覚ましい活躍をしている。トップレベルにあるということは、ある意味では心技体が統合されていることであろう。早期スポーツ教育の成果でもある。

一方、スポーツ早期教育を支持する価値は、子どもが参与している普通のスポーツ社会にも強い影響を与えている。その結果、子ども、指導者そして保護者も、勝利することに過度に価値をおいた活動を行い、スポーツバーンアウトやスポーツ障害を生じたり、子どもに必要な他の活動が出来ない生活構造を招くなどのマイナス面の指摘もある。

子ども自体がスポーツに参与する中で、一方では心技体を統合された存在として、スポーツの高度化へ貢献し、自らの充実した生活を送っているのに対し、他方では、自らの身体を損傷し、スポーツへの興味を無くし、不本意な生活を送っている。また、スポーツに参与しない子どもが約40%も存在し、身体面での問題を生じている。このよ

うに子どものスポーツ社会には、大人が責任をもって解決しなければならない次のような課題が隠されている。

- 1 スポーツの高度化は、その本質から考えて自然のことであるが、現代社会においては子ども、大人関係なく、それぞれの資質において、支えられるものであるのか？
- 2 科学的なトレーニングによって、子どもの身体能力はさらに伸びるものであるのか？
- 3 大人のスポーツ科学の知識やトレーニングの方法を強いることで、子どもの発想を抑制し、延いては、スポーツが高度化する機会を奪うことはないのか？
- 5 子どもには、子どもの心技体の特性を十分に活かしたスポーツが必要であり、大人の考えるスポーツと異なるものであって良いという考えは成り立たないのか？
- 6 子どもは多様な資質をもっているが、スポーツの練習時間が長くなり、他の資質を伸ばす機会を奪うことはないのか？

今回のラウンドテーブルでは、日本の競技スポーツ界でトップレベルの若年競技者の養成に長い歴史をもっておられる日本水泳連盟、世界で最も大規模な子どものスポーツ団体である日本スポーツ少年団、そして、サッカーの魅力の解を求め、子どもの視線からサッカーを論じる泉優二さんを話題提供者としてお招きしました。いずれも正面から子どものスポーツに取り組んでいただいている方々です。スポーツと子どもの関係を正面から語っていただきます。

日本子ども社会学会第13回大会 プログラム

発行 2006年6月

発行者 日本子ども社会学会第13回大会実行委員会

連絡先 東京都北区十条台1-7-13 (〒114-0033)

東京成徳大学子ども学部 子ども学科 永井研究室気付

Tel 03 - 3908 - 4530 Fax 03 - 3907 - 6195

E-mail nagai@tsu.ac.jp